

2011年4月28日

報道関係各位

中部学院大学
中部学院大学短期大学部

農業関係高校との高大連携事業

保育士を目指す学生が農業高校で田植え、乗馬実習

中部学院大学（学長 岡本 健）並びに中部学院大学短期大学部（学長 片桐 多恵子）は、昨年度、県内の4つの農業関係高校と高大連携を締結しました。今年度はこれまで県内の 大学と高校との取り組みとしてはなかった新たな試みとして、5月11日に 加茂農林高校（校長 大野 良輔）で田植え実習、6月15日には 岐阜農林高校（校長 高畑 清樹）で乗馬実習を行います。今回の実習を通して、日本人の主食である米の栽培を体験することにより、生命の尊さや自然、食料の大切さを学んだり、木曾馬の飼育方法を学びながら乗馬を体験することで、生命の尊さ、動物を愛する心、思いやりの心などを育んだり、将来、幼稚園・保育園や小学校などで勤務するときに役立てることを期待しています。（詳細は別紙参照）

記

【田植え実習】

- 日時 2011年5月11日（水）午前9時10分～午後0時20分
- 場所 加茂農林高校（美濃加茂市本郷町3-3-13 TEL:0574-26-1238）
- 参加者 中部学院大学短期大学部幼児教育学科1年20名、教員ほか

【乗馬実習】

- 日時 2011年6月15日（水）午前9時10分～午後0時20分
- 場所 岐阜農林高校（本巣郡北方町北方150 TEL:058-324-1145）
- 参加者 中部学院大学短期大学部幼児教育学科1年20名、教員ほか

[参考資料]

- ※ 資料① 田植え実習、乗馬実習の詳細
- ※ 資料② 高大連携の経緯

以上

(本件に関するお問い合わせ先)

中部学院大学 高大連携推進委員会（担当：学生部長 安藤） TEL:0575-24-2214（関キャンパス内）

高大連携のねらい

- 1) 未来を担う若者たちの育成にあたり、高等学校と大学が長期的な展望 に立って連携協力をを行い、「学ぶことの楽しさ、知ることの喜び」を実感させ、知的好奇心や主体的に学習する力を身に付けさせる。
- 2) 高等学校と大学との相互交流により、後期中等教育としての高等学校 教育と、高等教育としての大学教育の相互の活性化を図るとともに地域・社会に貢献する有為な人材を育成する。

加茂農林高校での田植え実習

【1日の流れ】	9:10発	10:00～11:30	11:40	12:20着
	大学玄関	高校着・田植え実習	高校発	大学玄関

【田植え実習のねらい】

日本人の主食である米（水稲）の栽培を体験することにより、

- ① 生命の尊さや自然、食料の大切さを学ぶ。
- ② 郷土や自然を愛する人間の育成を図る。
- ③ 豊かな人間性や望ましい勤労観を育成する。
→ 将来、幼稚園・保育園や小学校等で活躍する時に役立てる。

【本授業の目的】

- ① 「稲の栽培」の全体像を知る。
- ② 「田植え」ができるようになる。

岐阜農林高等での乗馬実習

【1日の流れ】	9:10発	10:00～11:30	11:40	12:20着
	大学玄関	高校着・乗馬実習	高校発	大学玄関

【乗馬実習のねらい】

木曾馬の飼育方法を学び、乗馬を体験することにより、

- ① 生命の尊さ、動物を愛する心、思いやりの心を育成する。
- ② 豊かな人間性や望ましい勤労観を育成する。
→ 将来、幼稚園・保育園や小学校等で活躍する時に役立てる。

【本授業の目的】

- ① 木曾馬の歴史と特徴を知る。
- ② 馬の飼育方法や調教方法について学ぶ。

③ 馬の接し方や乗馬の楽しさを知る。

資料 ②

県内4農業関係高等学校との高大連携について

1 「趣 旨」

- (1) 未来を担う若者たちの育成にあたり、高等学校と大学が長期的な展望に立って連携協力をを行い、共同して、地域・社会に貢献する有為な人材を育成する。
- (2) 高校生が大学での学びに触れることにより、学習意欲や知的好奇心を高めるとともに、適切な進路選択、職業選択を行うことができるよう支援する。
- (3) 高等学校と大学との相互交流により、後期中等教育としての高等学校教育と、高等教育としての大学教育の相互の活性化に資する。
- (4) 大学入学前教育、リメディアル教育の在り方を検討するなど、高等学校教育と大学教育の円滑な接続を図る。

2 「交流テーマ」

- (1) 大学の講義への高等学校生徒聴講生の受け入れ（高大連携講座など）
- (2) 高等学校の学習活動や特別活動などの諸活動に対する大学の資源提供・支援・交流（出前講座などの講師派遣、教室等施設・備品の提供など）
- (3) 高等学校の生徒及びその保護者向け講座の開設・開講（講師派遣など）
- (4) 教育に関する諸問題についての情報交換と教職員の交流
- (5) その他双方にとっての有益な事業の実施

3 「農業高校と本学の高大連携の意義」

- (1) 生命体の育成を中心に心豊かな人づくり教育をしている農業高校の学習と福祉、介護や幼児教育などを行う本学の教育の教育理念とは共通点が多い。
- (2) 農業教育で身につけた知識・技術と豊かな人間性に加え、本学の福祉、介護や幼児教育の専門的知識・技術の学習により、進路選択・職業選択の幅を広げ、社会に貢献する人づくりに繋げる。
- (3) 農業高校と大学のもつ資源の交流を図る。（大学からは、福祉・介護・教育等のスペシャリストによる出前講座、大学での体験講座等の提供。高校からは、農業や環境に関する農業高校の教育資源の提供）

※1 これまでに本学が調印している高大連携校（順不同）

関高校、関有知高校、東濃実業高校、岐阜各務野高校、郡上高校、岐阜総合学園高校、山県高校、関商工高校、土岐紅陵高校、大垣桜高校、長良特別支援学校、岐阜農林高校、加茂農林高校、大垣養老高校、恵那農業高校、益田清風高校、飛騨高山高校（以上公立校）
済美高校（私立校）